

様式3

静岡県公立大学法人

平成30事業年度に係る業務の実績に関する評価結果

令和元年8月

静岡県公立大学法人評価委員会

第1 静岡県公立大学法人の平成30事業年度における業務実績評価について

静岡県公立大学法人評価委員会は、「静岡県が設立する公立大学法人に係る評価基本方針」(H19.12.5制定)に基づき、平成30事業年度の業務の実績に関する評価を行った。

1 評価に当たっての基本的な考え方

- (1) 評価を通じて、大学の教育研究及び法人運営の進捗状況等を分かりやすく示し、県民への説明責任を果たしていくものとする。
- (2) 法人の教育研究並びに組織及び運営についての様々な工夫や特色ある取組を積極的に評価するものとする。
- (3) 次期中期目標・中期計画、法人の組織及び業務運営の見直しの検討に資するものとする。

2 評価方法

- (1) 年度評価は、「全体評価」と「項目別評価」により行った。
- (2) 「全体評価」は、(3)の項目別評価を踏まえるとともに、当該年度の重点的な取組や法人の特性等に配慮しつつ、中期目標・中期計画の全体的な進捗状況を総合的に判断した。
- (3) 「項目別評価」は、法人による自己点検・評価の結果を基に、当該年度計画に定めた項目ごと、年度計画設定の妥当性も含めて総合的に検証を行い、中期目標・中期計画の達成に向けた進捗状況を確認した上で、「大学の教育研究等の質の向上に関する目標」、「法人の経営に関する目標」、「自己点検・評価及び情報の提供に関する目標」及び「その他業務運営に関する重要目標」の4つの目標別に総合的に検証した。

第2 全体評価

1 評価結果と判断理由

(1) 評価結果

静岡県公立大学法人（以下「法人」という。）の平成30年度の業務実績に関しては、全体として「**中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる**」と評価する。

(2) 判断理由

法人は、静岡県立大学及び同短期大学部が、総合大学として生命科学と人文社会科学の両分野が連携した質の高い教育研究を通じ、本県のみならず国内外の将来を支える有為な人材の育成に努めるほか、教育研究成果を国内外に広く発信することにより、社会の発展に寄与する「**知の拠点**」として、県民に支持され続ける魅力ある大学づくりを進めるよう計画を策定し、遂行している。

第2期中期目標期間の最終年度である平成30年度は、中期計画及び年度計画に基づく数々の目標の達成に向けた取組を進めるとともに、県が指示した第3期中期目標を基に第3期中期計画を策定するなど、着実に成果を挙げた1年となった。

法人の中期目標・中期計画の達成に向けた業務の進捗状況については、「第3項目別評価」のとおり、「**大学の教育研究等の質の向上に関する目標**」、「**法人の経営に関する目標**」、「**自己点検・評価及び情報の提供に関する目標**」の3項目については「**中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる**」と認められ、「**その他業務運営に関する重要目標**」については「**中期目標・中期計画の達成に向けておおむね順調に進んでいる**」と認められる。

これらの状況と平成30年度の重点的な取組や法人の特性等を総合的に勘案し、(1)のとおりの評価が相当と判断した。

(3) 平成30年度の重点的な取組

ア 地域志向の教育研究の推進

第2期中期計画の重点課題である**地域貢献に資するため**、地（知）の拠点整備事業¹（COC事業）による**地域志向研究**や、連携協定締結自治体との連携事業等、**県内自治体と連携した教育研究**を推進するとともに、**観光教育の開設に向けた広報や学生募集**等を着実に進めた。

（No.28、82、109）

¹ 地（知）の拠点整備事業：大学等が持つ知的資源を集約し、地域が直面している様々な課題を解決する取組のうち、特に優れたものを支援するための文部科学省の補助事業。大学COC(Center of Community)事業とも呼ばれる。

イ グローバル化を促進する教育研究の推進

第2期中期計画の重点課題である**グローバル化を促進するため、海外協定校の拡充**や協定校と連携した**新たな語学研修プログラムの開始**、**海外からの研究者等の積極的な招聘等**に取り組んだ。(No.32、124、127)

ウ 組織体制の専門性の向上

教育組織及び事務局組織の専門性の向上に向け、**言語コミュニケーション研究センターの体制強化**や**大学事務局への国際交流センターの設置**、**法人固有職員の採用の加速等**に取り組んだ。(No.62、132、135、138)

2 評価に当たっての意見、指摘等

- 令和元年度から第3期中期目標期間が始まったことから、これまで積み重ねた取組を元に、**第2期中期目標期間の評価を踏まえ、更なる飛躍を目指した法人運営を行っていくことを期待する。**
- 当評価結果において**課題とした項目及び意見、指摘等を付した項目**については、地方独立行政法人法に基づき、**今後の業務運営や年度計画及び中期計画に適切に反映すべきこと**に留意しつつ、**全学で問題意識を共有することが必要である。**

(参考)項目別評価の結果

1 大学の教育研究等の質の向上に関する目標	特筆すべき進捗状況	順調に進んでいる	おおむね順調に進んでいる	やや遅れている	重大な改善事項がある
2 法人の経営に関する目標	特筆すべき進捗状況	順調に進んでいる	おおむね順調に進んでいる	やや遅れている	重大な改善事項がある
3 自己点検・評価及び情報の提供に関する目標	特筆すべき進捗状況	順調に進んでいる	おおむね順調に進んでいる	やや遅れている	重大な改善事項がある
4 その他業務運営に関する重要目標	特筆すべき進捗状況	順調に進んでいる	おおむね順調に進んでいる	やや遅れている	重大な改善事項がある

第3 項目別評価

大学の教育研究等の質の向上に関する目標

1 評価結果と判断理由

(1) 評価結果

大学の教育研究等の質の向上に関する目標の進捗状況は、「**中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる**」と評価する。

(2) 判断理由

大学の教育研究等の質の向上に関する目標について、当評価委員会が検証した結果、年度計画記載の131項目中9項目が「**計画を上回って実施している**」、118項目が「**計画を十分に実施している**」と認められ、大学院の定員未充足等の課題は残るものの、課題の解決に向けた一定の取組は図られている。

これらの状況等を総合的に勘案し、(1)のとおりの評価に相当すると判断した。

(3) 特に評価する項目

- ・ **薬剤師国家試験**において合格率が98.8%に達し、薬学部を設置する全国の大学で**合格率が5位**となったほか、**管理栄養士、助産師、歯科衛生士国家試験**において合格率100%を達成するなど、**高い水準の国家試験合格率**を記録した。(No. 4、6、21、24)
- ・ **オープンキャンパス**について、看護学部の小鹿キャンパス開催への変更と併せ、1日2部制の導入やJR静岡駅からの無料シャトルバスの運行等の**積極的な対応**により、同学部はもとより**全体の参加者数が前年度に引き続き増加**するなど、**効果的な入試広報を展開**した。(No.25)
- ・ 令和元年度からの**国際関係学部における新カリキュラムの導入**及び**経営情報学部における観光教育の導入**に向け、入試広報等に着実に取り組み、**両学部の一般入試志願倍率が上昇**するなど、新たな教育課程導入の効果が表れている。(No.28)
- ・ 県立大学が立地する草薙地域及び周辺地域の文化関連機関による自主協働プログラム「**ムセイオン静岡**」²において、**県立大学の地域資源に係る教育研究を活かした企画が発展**し、メディアにも取り上げられ、地域の認知度向上に向けた一定の成果が得られている。(No.117)

² ムセイオン静岡：県立大学のほか、県立美術館、県舞台芸術センター等、静岡市草薙地域及びその周辺地域に位置する文化関連機関が、自主協働プログラムとして文化・芸術・教育を学ぶ場を提供し、文化を発信する活動。

- ・ カナダ、ブリティッシュ・コロンビア州立**ビクトリア大学付属機関**と県立大学言語コミュニケーション研究センターとの**部局間協定を締結**するとともに**新たな英語研修プログラムを開始**するなど、英語教育の充実に取り組んだ。(No.32)
- ・ 前年度に連携協定を締結した**藤枝市との連携事業**のほか、静岡市等中部5市2町による**しずおか中部連携中枢都市圏³との連携事業**等、地(知)の拠点整備事業(COC事業)による地域志向研究に加え、**連携協定締結自治体等と連携した事業を積極的に展開**した。(No.82)
- ・ 各種技術展示会・説明会への参加及び県内での産学官及び金融機関とのマッチング会の開催等により**産学連携を推進し、受託・共同研究の件数の増加**や**技術移転の促進**等の成果につながった。(No.105、115、116)
- ・ 「日韓次世代学術フォーラム第15回国際学術大会」等、**国際的な学術シンポジウム等の開催**により、**海外から延べ200人を超える多数の研究者等を招聘**し、グローバルな教育研究を展開した。(No.127)

(4) 課題とする項目

- ・ 大学院の**薬食生命科学総合学府のうち食品栄養科学専攻(博士)及び環境科学専攻(修士・博士)**並びに**看護学研究科**において**定員割れの状況**が続いており、**社会人が学びやすい環境の整備等、実効性のある学生確保策**の実行及び**専攻等の在り方の見直し**が必要である。(No.16、17、20)
- ・ 平成29年度に続き、**出題ミス**を原因とする**入試ミス**が**2年連続**で発生しており、信頼回復に向け、作問及びチェック体制を更に検証し、全学を挙げて**実効性のある再発防止策**を講じることが必要である。(No.27)

2 評価に当たっての意見、指摘等

- ・ 短期大学部看護学科の看護学部統合と併せ実施した**看護学部の編入学定員の増員**に対し、**充足率が低下**している。改善策の速やかな検討及び実行が必要である。(No.11)

3 しずおか中部連携中枢都市圏：静岡市、島田市、焼津市、藤枝市、牧之原市、榛原郡吉田町、榛原郡川根本町で構成された広域連携。

(参考)小項目評価の集計結果

	評価対象 項目数	A 計画を 上回って実施	B 計画を 十分に実施	C 計画を十分には 実施していない	D 計画を 大幅に下回る
1 教育	82	4	74	4	0
2 研究	26	1	25	0	0
3 地域貢献	14	3	11	0	0
4 グローバル化	9	1	8	0	0
合 計	131	9 (6.9%)	118 (90.1%)	4 (3.0%)	0

法人の経営に関する目標

1 評価結果と判断理由

(1) 評価結果

法人の経営に関する目標の進捗状況は、「**中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる**」と評価する。

(2) 判断理由

法人の経営に関する目標について、当評価委員会が検証した結果、年度計画記載の19項目中1項目が「**計画を上回って実施している**」、18項目が「**計画を十分に実施している**」と認められ、これらの状況を総合的に勘案し、(1)のとおりの評価に相当すると判断した。

(3) 特に評価する項目

事務局組織の専門性の向上に向け、大学事務局への**国際交流センターの設置、法人固有職員の採用の加速、技監職の設置等**に取り組んだ。(No.132、135、138)

2 評価に当たった意見、指摘等

有期雇用職員の無期転換制度導入に先立つ労働委員会によるあっせん手続申立事案の発生等を踏まえ、**人事・組織のマネジメントに問題はないか**、検証することが必要である。(No.139)

(参考)小項目評価の集計結果

	評価対象 項目数	A 計画を 上回って実施	B 計画を 十分に実施	C 計画を十分には 実施していない	D 計画を 大幅に下回る
1 業務運営の 改善	11	1	10	0	0
2 財務内容の 改善	8	0	8	0	0
合 計	19	1 (5.3%)	18 (94.7%)	0	0

自己点検・評価及び情報の提供に関する目標

1 評価結果と判断理由

(1) 評価結果

自己点検・評価及び情報の提供に関する目標の進捗状況は、「**中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる**」と評価する。

(2) 判断理由

自己点検・評価及び情報の提供に関する目標について、当評価委員会が検証した結果、年度計画記載の4項目全てが「**計画を十分に実施している**」と認められ、この状況を総合的に勘案し、(1)のとおりの評価に相当すると判断した。

2 評価に当たっての意見、指摘等

世界大学ランキング(日本版・世界版)⁴へのエントリーを通じ、大学の持つ**強み・弱みの分析**を踏まえ、入試広報等の各種施策に活かすよう期待する。(No.153)

(参考)小項目評価の集計結果

	評価対象 項目数	A 計画を 上回って実施	B 計画を 十分に実施	C 計画を十分には 実施していない	D 計画を 大幅に下回る
1 評価の充実	1	0	1	0	0
2 情報公開・ 広報の充実	3	0	3	0	0
合 計	4	0	4 (100.0%)	0	0

⁴ 世界大学ランキング：英国の教育専門誌「タイムズ・ハイヤー・エデュケーション」誌が毎年発表するランキング。日本の民間教育機関と提携し実施される「日本版」は学部・教育力にウェイトを置き、「世界版」は大学院の研究力にウェイトを置く特徴がある。

その他業務運営に関する重要目標

1 評価結果と判断理由

(1) 評価結果

その他業務運営に関する重要目標の進捗状況は、「**中期目標・中期計画の達成に向けておおむね順調に進んでいる**」と評価する。

(2) 判断理由

その他業務運営に関する重要目標について、当評価委員会が検証した結果、年度計画記載の12項目中10項目が「**計画を十分に実施している**」と認められるが、2項目が「**計画を十分には実施していない**」と認められ、これらの状況を総合的に勘案し、(1)のとおりの評価に相当すると判断した。

(3) 課題とする項目

- 放射線障害防止法に基づく使用手続きを受けていない**放射性物質**と疑われる試料が**放射線管理区域外で発見**された。

学生及び教職員への放射線障害のおそれ並びに外部への影響はなく、また、再発防止の取組を含む必要な事後措置を講じているが、引き続き、**取組を徹底**する必要がある。(No.158)

- 学生に対するアカデミック・ハラスメント行為**の被害認定に至ったことは、極めて遺憾である。

ハラスメント行為は**人権の侵害**であり、高い倫理性が求められる**大学の評価**を著しく低下させるものであることから、**通常**の研修に加え、**教職員の採用時の研修を取り入れる**など、全教職員が強い危機感を持って受け止め、**再発防止に向けた取組を徹底**する必要がある。(No.163)

2 評価に当たったの意見、指摘等

- 男女共同参画やワーク・ライフ・バランスに関する啓発・提言の各種取組が計画に沿って着実に行われているが、**多目的保育支援施設の利用状況**を含め、**教職員の労働環境の整備**をさらに推進する必要がある。(No.164)

- 補助金等会計の諸規定**を再確認し、**適正な執行**に努める必要がある。(No.165)

(参考)小項目評価の集計結果

	評価対象 項目数	A 計画を 上回って実施	B 計画を 十分に実施	C 計画を十分には 実施していない	D 計画を 大幅に下回る
1 施設・設備の 整備、活用等	1	0	1	0	0
2 安全管理	7	0	6	1	0
3 社会的責任	4	0	3	1	0
合 計	12	0	10 (83.3%)	2 (16.7%)	0

業務実績評価集計表（平成 30 年度）

区分		評価対象 項目数	A 計画を 上回って実施	B 計画を 十分に実施	C 計画を十分には 実施していない	D 計画を 大幅に下回る
教育研究等	教育	82	4	74	4	0
	研究	26	1	25	0	0
	地域貢献	14	3	11	0	0
	グローバル化	9	1	8	0	0
	合 計	131	9 (6.9%)	118 (90.1%)	4 (3.0%)	0
法人経営		19	1 (5.3%)	18 (94.7%)	0	0
自己点検		4	0	4 (100.0%)	0	0
その他		12	0	10 (83.3%)	2 (16.7%)	0
総合計		166	10 (6.0%)	150 (90.4%)	6 (3.6%)	0

業務実績評価集計表（平成 29 年度）

区分		評価対象 項目数	A 計画を 上回って実施	B 計画を 十分に実施	C 計画を十分には 実施していない	D 計画を 大幅に下回る
教育研究等	教育	82	3	78	1	0
	研究	26	2	24	0	0
	地域貢献	14	4	10	0	0
	グローバル化	9	0	8	1	0
	合 計	131	9 (6.9%)	120 (91.6%)	2 (1.5%)	0
法人経営		19	0	19 (100.0%)	0	0
自己点検		4	0	4 (100.0%)	0	0
その他		12	1 (8.3%)	10 (83.3%)	1 (8.3%)	0
総合計		166	10 (6.0%)	153 (92.2%)	3 (1.8%)	0